

(2) 式をxの場所をx\_iとわかるようにして、以下のように考える。

$$f_A(x_1, \dots, x_n) = \begin{vmatrix} x_1 - a_{11} & -a_{12} & \cdots & -a_{1n} \\ -a_{21} & x_2 - a_{22} & \cdots & -a_{2n} \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ -a_{n1} & -a_{n2} & \cdots & x_n - a_{nn} \end{vmatrix} \quad \text{ただし、本当は } x_1 = \dots = x_n$$

このとき、(3)の上の式は

$f_A(x) = x^n + a_1 x^{n-1} + \dots + a_r x^{n-r} + \dots + a_n$ であるが、 $f_A(x_1, \dots, x_n)$ で書き換えて、  
 $f_A(x_1, \dots, x_{nn}) = x_1 \dots x_n + (a_{\{x_2, \dots, x_n\}} x_2 \dots x_n + \dots$   
 $+ a_{\{x_1, \dots, x_{p-1}, x_{p+1}, \dots, x_n\}} x_1 \dots x_{p-1} x_{p+1} \dots x_n + \dots + a_{\{x_1, \dots, x_{n-1}\}} x_1 \dots x_{n-1}$   
 $+ \dots + \sum_{\{j_1 < \dots < j_r\}} a_{\{x_{j_1}, \dots, x_{j_r}\}} x_{j_1} \dots x_{j_r} + a_{\{\Phi\}}$   
 ただし、 $a_{\{\Phi\}} = a_n$ になる。(xが選ばれないので、インデックスが無い。)

さて、 $a_{\{x_{j_1}, \dots, x_{j_i}\}}$ を求めることを考える。m行とn行をまた、m列とn列を入れ替えることを繰り返すと偶数回の置換なので、行列式は変わらない。よって、

$$f_A(x_1, \dots, x_n) = \begin{vmatrix} x_1 - a_{11} & -a_{12} & \cdots & -a_{1n} \\ -a_{21} & x_2 - a_{22} & \cdots & -a_{2n} \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ -a_{n1} & -a_{n2} & \cdots & x_n - a_{nn} \end{vmatrix} =$$

$x_{\{j\_1\}} - a_{\{j\_1\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{j\_1\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{j\_1\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{j\_1\}\{i\_k\}}$
$\cdots \quad \cdots \quad \cdots$	$\cdots \quad \cdots \quad \cdots$
$-a_{\{j\_r\}\{j\_1\}} \cdots x_{\{j\_r\}} - a_{\{j\_r\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{j\_r\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{j\_r\}\{i\_k\}}$
$-a_{\{i\_1\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{i\_1\}\{j\_r\}}$	$x_{\{i\_1\}} - a_{\{i\_1\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{i\_1\}\{i\_k\}}$
$\cdots \quad \cdots \quad \cdots$	$\cdots \quad \cdots \quad \cdots$
$-a_{\{i\_k\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{i\_k\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{i\_k\}\{i\_1\}} \cdots x_{\{i\_k\}} - a_{\{i\_k\}\{i\_k\}}$

ただし、 $r+k=n$

この式から、 $x$ たちを変数として、 $x_{\{j\_1\}} \dots x_{\{j\_r\}}$ の係数 $a_{\{x_{\{j\_1\}}, \dots, x_{\{j\_r\}}\}}$ を考える。

前ページの中段付近の $f_A(x_1, \dots, x_n)$ の多項式を考えると、 $x_{\{i\_1\}}, \dots, x_{\{i\_k\}}$ を0としても、 $a_{\{x_{\{j\_1\}}, \dots, x_{\{j\_r\}}\}}$ は残り、 $x_{\{j\_1\}}, \dots, x_{\{j\_r\}}$ の多項式になる。当然ながら、この操作で消えるものは $x_{\{i\_1\}}, \dots, x_{\{i\_k\}}$ をかけている項なので、 $x_{\{j\_1\}} \dots x_{\{j\_r\}}$ の係数部分でない。

$x_{\{j\_1\}} - a_{\{j\_1\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{j\_1\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{j\_1\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{j\_1\}\{i\_k\}}$
$\cdots \quad \cdots \quad \cdots$	$\cdots \quad \cdots \quad \cdots$
$-a_{\{j\_r\}\{j\_1\}} \cdots x_{\{j\_r\}} - a_{\{j\_r\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{j\_r\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{j\_r\}\{i\_k\}}$
$-a_{\{i\_1\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{i\_1\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{i\_1\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{i\_1\}\{i\_k\}}$
$\cdots \quad \cdots \quad \cdots$	$\cdots \quad \cdots \quad \cdots$
$-a_{\{i\_k\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{i\_k\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{i\_k\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{i\_k\}\{i\_k\}}$

この式で、 $x_{\{j\_1\}} \dots x_{\{j\_r\}}$ となる部分を探すと、左上の部分の対角成分がかけられ、かつ、その対角成分の $x$ がかけられたときしかない。(左上の部分で $a$ がかけられると、 $x$ が $r$ 次に達しない。)

左上の対角成分をかけるとすると、残りは右下をかけないと、行列式の計算はできない。

$x_{\{j\_1\}} - a_{\{j\_1\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{j\_1\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{j\_1\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{j\_1\}\{i\_k\}}$
$\cdots \cdots \cdots$	$\cdots \cdots \cdots$
$-a_{\{j\_r\}\{j\_1\}} \cdots x_{\{j\_r\}} - a_{\{j\_r\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{j\_r\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{j\_r\}\{i\_k\}}$
$-a_{\{i\_1\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{i\_1\}\{j\_r\}}$	$x_{\{i\_1\}} - a_{\{i\_1\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{i\_1\}\{i\_k\}}$
$\cdots \cdots \cdots$	$\cdots \cdots \cdots$
$-a_{\{i\_k\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{i\_k\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{i\_k\}\{i\_1\}} \cdots x_{\{i\_k\}} - a_{\{i\_k\}\{i\_k\}}$

ただし、 $r+k=n$

この式から、 $x$ たちを変数として、 $x_{\{j\_1\}} \dots x_{\{j\_r\}}$ の係数 $a_{\{x_{\{j\_1\}}, \dots, x_{\{j\_r\}}\}}$ を考える。

前ページの中段付近の $f_A(x_1, \dots, x_n)$ の多項式を考えると、 $x_{\{i\_1\}}, \dots, x_{\{i\_n\}}$ を0としても、 $a_{\{x_{\{j\_1\}}, \dots, x_{\{j\_r\}}\}}$ は残り、 $x_{\{j\_1\}}, \dots, x_{\{j\_r\}}$ の多項式になる。当然ながら、この操作で消えるものは $x_{\{i\_1\}}, \dots, x_{\{i\_n\}}$ をかけている項なので、 $x_{\{j\_1\}} \dots x_{\{j\_r\}}$ の係数部分でない。

$x_{\{j\_1\}} - a_{\{j\_1\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{j\_1\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{j\_1\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{j\_1\}\{i\_k\}}$
$\cdots \cdots \cdots$	$\cdots \cdots \cdots$
$-a_{\{j\_r\}\{j\_1\}} \cdots x_{\{j\_r\}} - a_{\{j\_r\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{j\_r\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{j\_r\}\{i\_k\}}$
$-a_{\{i\_1\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{i\_1\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{i\_1\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{i\_1\}\{i\_k\}}$
$\cdots \cdots \cdots$	$\cdots \cdots \cdots$
$-a_{\{i\_k\}\{j\_1\}} \cdots -a_{\{i\_k\}\{j\_r\}}$	$-a_{\{i\_k\}\{i\_1\}} \cdots -a_{\{i\_k\}\{i\_k\}}$

この式で、 $x_{\{j\_1\}} \dots x_{\{j\_r\}}$ となる部分を探すと、左上の部分の対角成分がかけられ、かつ、その対角成分の $x$ がかけられたときしかない。(左上の部分で $a$ がかけられると、 $x$ が $r$ 次に達しない。) 左上の対角成分をかけるとすると、残りは右下をかけないと、行列式の計算はできない。

そのため、左上の非対角成分及び、左下、右上は無視でき、 $a_{\{x_{\{j_1\}}, \dots, x_{\{j_r\}}\}} x_{\{j_1\}} \dots x_{\{j_r\}}$ は以下の式になる。

$$\begin{aligned}
 &a_{\{x_{\{j_1\}}, \dots, x_{\{j_r\}}\}} x_{\{j_1\}} \dots x_{\{j_r\}} = \\
 &\begin{vmatrix}
 x_{\{j_1\}} & \dots & 0 \\
 \dots & \dots & \dots \\
 0 & \dots & x_{\{j_r\}} \\
 \hline
 0 & \dots & \dots \\
 \dots & \dots & \dots \\
 \dots & \dots & \dots
 \end{vmatrix}
 \begin{vmatrix}
 0 \\
 \dots \\
 \dots \\
 \dots
 \end{vmatrix} \\
 &= x_{\{j_1\}} \dots x_{\{j_r\}} * (-1)^k \begin{vmatrix}
 a_{\{i_1\}\{i_1\}} & \dots & a_{\{i_1\}\{i_k\}} \\
 \dots & \dots & \dots \\
 a_{\{i_k\}\{i_1\}} & \dots & a_{\{i_k\}\{i_k\}}
 \end{vmatrix}
 \end{aligned}$$

さて、1ページ目に戻って、xの違いをなくすと、求めたい $a_r$ は $\sum_{\{j_1 < \dots < j_r\}} a_{\{x_{\{j_1\}}, \dots, x_{\{j_r\}}\}}$ になる。また、 $j_1, \dots, j_r$ と $i_1, \dots, i_k$ (ただし、 $r+k=n$ )は $1, \dots, n$ を一回ずつ割り当てたものだから、 $j_1, \dots, j_r$ を決めると自ずから $i_1, \dots, i_k$ が決まる。一組の組み合わせに対して、1回ずつ足すことを保証するために、 $\sum_{\{j_1 < \dots < j_r\}}$ としていたが、これは $\sum_{\{i_1 < \dots < i_k\}}$ と同義になる} によって、

$$a_k = \sum_{\{j_1 < \dots < j_r\}} a_{\{x_{\{j_1\}}, \dots, x_{\{j_r\}}\}} =$$

$$= \sum_{\{j_1 < \dots < j_r\}} (-1)^k$$

$a_{\{i_1\}\{i_1\}}$	$\dots$	$a_{\{i_1\}\{i_k\}}$
$\dots$	$\dots$	$\dots$
$a_{\{i_k\}\{i_1\}}$	$\dots$	$a_{\{i_k\}\{i_k\}}$

$$= \sum_{\{i_1 < \dots < i_k\}} (-1)^k$$

$a_{\{i_1\}\{i_1\}}$	$\dots$	$a_{\{i_1\}\{i_k\}}$
$\dots$	$\dots$	$\dots$
$a_{\{i_k\}\{i_1\}}$	$\dots$	$a_{\{i_k\}\{i_k\}}$

$$= (-1)^k * \sum_{\{i_1 < \dots < i_k\}}$$

$a_{\{i_1\}\{i_1\}}$	$\dots$	$a_{\{i_1\}\{i_k\}}$
$\dots$	$\dots$	$\dots$
$a_{\{i_k\}\{i_1\}}$	$\dots$	$a_{\{i_k\}\{i_k\}}$